

第2回きのくにコミュニティスクール推進協議会 協議概要

- 1 日 時 令和5年10月20日（金）10時から12時まで
- 2 会 場 橋本市立紀見小学校 職員玄関：参観 多目的室：協議
- 3 テー マ 学校・家庭・地域が総がかりで子供の生きる力を育む
～全ての人当事者となり、協働するために～

4 参 観

KimiMart（キミマート）の取組を参観

※特別支援学級が地域の方に農園づくりを学び、育てた野菜を地域の方に販売（ベルマークやアルミ缶と交換）する取組。現在は、各学年に広がり、学年ごとに地域の方へ感謝の気持ちをお返ししている。

当日の贈り物は、若草学級から完全無農薬の朝採りナス（またはコカブ）と九度山の柿、1年生から手作りメッセージ付きブックマーク、3年生から肩トントンで地域の人へ感謝の気持ちをお返しした。



5 協議事項

地域学校協働活動を巻き込むことによるつながりの構築～連携・協働～

- （1）紀見小学校のCSの取組について
- （2）感想・意見交流

6 紀見小学校からの取組報告

○太田校長先生より、【紀見小学校のCSの取組】として、地域との連携・協働の組織づくり、KimiMart開催に至るまでの学校運営協議会における熟議及び教職員の思い等について

○土屋垣内委員兼橋本市地域学校協働活動推進員より、コーディネーターとしての役割について

○今田委員より、橋本市教育委員会教育長の立場から、KimiMartの意義について



7 委員からの感想・意見

【紀見小学校の取組について】

校長先生の「地域とつながりたい」という強い思いが原動力となり、地域との連携・協働を実現させたと感じた。また、橋本市の教育長が自らの思い校長先生と共有できていることから、橋本市の教育が進んでいることがわかる。本市でも取り組んでいきたい。よい勉強させていただいた。

どういう子供に育って欲しいのかという願いが教育委員会、校長先生、地域の方で共有し、カリキュラムに展開ができ、継続して取り組めている点を見習わなければいけない。

県教育委員会が推進の3つの柱として、「学校運営協議会の活性化」「コーディネーターの発掘・育成」、「教職員への推進」を掲げている。紀見小学校の取組は、学校運営協議会とは学校運営に関わる会議をすることで十分であるが、実際動くことで話し合いが深まり、学校運営協議会が活性化されていると感じた。

また、最高のコーディネーターを見つけられており、この取組が持続できると感じた。教職員への推進については、この取組が月1回継続して行われている。学校側も地域側もしんどかったら続かないが、持続可能な仕組みを作っている。

3年生の子供が、「実はこの間ね、社会見学に行っただね」とか話しながら、肩たたきをしてくれた。「最後にありがとうね」や、「今度どこ行くの」と会話ができただことがすごく貴重な機会であった。知らない人から、ちょっと知っている人になることで、「あのおばちゃんだな」と顔見知りになる出会いのきっかけを作ってくれている。この機会が本当にいいことであると感じた。

どういう子供に育って欲しいのかという願いが教育委員会、校長先生、地域の方で共有できている点を見習わなければいけない。

地域との連携・協働は、どうしても学校支援という形で受けることが多いが、本日の取組は感謝の気持ちを地域に返したように双方向というところがとても良かった。感謝というキーワードで、校長先生のリーダーシップのもと、学校全体で取り組んでいる活動を見せてもらった。

子供主体ということが本当に大事だと思う。子供を中心に社会を切り開いていくことが大事である。

地域の方に感謝を返すことによって、持続可能となるのではないかと。感謝してもらおうと、「次はこういうことをしようか」となる。感謝をどのような形に変えていくか、そういうことを考えながら、コミュニティ・スクールを活用し学校を活性化させていきたい。

【県内の推進に向けて】

地域の方が学校に行くのが楽しいと感じる。そして、「地域は学校のために何ができるのか」と考える。これは1人の人からの波紋（口コミ）が波のようにその地域の人々に広がっていく。そして、みんなで子供たちを育て、見守っていく地域になっていく。

モデルとなる取組を、各市町村にも周知できれば、「うちではこんなふうに取り組んでいける」と勉強になり、和歌山県全体での取組が盛んになるのではないかと。

子供が主体的に参画できるようにするため、どのようなカリキュラムを作っていくのか。また、地域の方々や保護者の方々をどう巻き込んでいくかというカリキュラム・マネジメントができるようになると、ある意味理想の姿に近づいていく。

コミュニティ・スクールによって良い教育活動になっているか、今後は変化をどう見せていくのかが1つのポイントになる。

地域とともにある学校づくり、人をつくり、夢をつくり、地域をつくっていくために、まなざしが大事である。大人と子供がいたら、大人から子供へのまなざしを向けるために、何か接点を作っていかなければならない。

人の役割はすごく大切である。システムがあっても、人と人がつながっていなかったら、このシステムは機能しない。学校の取組もまさにそうである。システムを作り、人をどう動かすか、まさに同じことだ。